

船木 亨教授 履歴・業績

船木 亨 教授 履歴・業績

履 歴

[学歴]

- 1977年 3月 東京大学文学部 I 類倫理学科卒業
1983年 3月 東京大学大学院人文科学研究科倫理学専修課程博士課程単位取得退学
1999年 3月 博士（文学）（東京大学）

[職歴]

- 1983年 4月 共立女子大学文芸学部 非常勤講師（「哲学」「倫理学」）（～1986年 3月）
1986年 4月 熊本大学文学部哲学科 専任講師（～1989年 3月）
1988年 4月 大学入試センター 教科専門委員会倫理問題作成部会委員（～1990年 3月）
1989年 4月 熊本大学文学部哲学科 助教授（～2000年 3月）
1989年 4月 国立熊本病院附属看護学校（「生命倫理」） 非常勤講師（～1999年 3月）
1992年 4月 高校教科書「倫理」 検定意見作成委員（～1993年 3月）
1996年 4月 日本倫理学会 編集委員および和辻賞選考委員（～1999年 3月）
1997年 4月 大学入試センター 試験問題特別専門委員会委員（～1999年 3月）
1999年 6月 文部省在外研究員（ロンドン大学）（～2000年 4月）
2000年 4月 熊本大学文学部哲学科 教授（～2003年 3月）
2001年 4月 国立熊本病院倫理委員会 常任委員（～2002年 3月）
2001年 4月 大学入試センター 試験問題特別専門委員会部会長（～2004年 3月）
2002年 2月 筑波大学人文学類 集中講義

- 2003年4月 専修大学文学部人文学科（2010年、哲学科に改組）教授（～2023年3月）
- 2003年9月 熊本大学文学部 集中講義
- 2004年4月 日本倫理学会 編集委員および和辻賞選考委員（～2006年3月）
- 2004年4月 東京大学 非常勤講師（「倫理学」）（～2009年3月）
- 2004年4月 青山学院大学 非常勤講師（「現代思想」）（～2017年3月）
- 2006年4月 学術振興会特別研究員等審査会 専門委員（～2007年3月）
- 2007年4月 共立女子大学文芸学部 非常勤講師（「倫理学」）（～2008年3月）
- 2011年4月 放送大学 客員教授（「現代哲学への挑戦」）（～2017年3月）
- 2015年4月 放送大学大学院 客員教授（～2020年3月）
- 2015年4月 日本倫理学会 評議員（～2017年3月）
- 2015年4月 学術振興会特別研究員等審査会 専門委員（～2016年3月）
- 2019年4月 日本倫理学会 評議員（～2023年3月）

業 績

〔著書〕

《単著》

- 『ドゥルーズ』〈人と思想シリーズ〉清水書院，1994年
- 『ランド・オブ・フィクション——ベンタムにおける功利性と合理性』木鐸社（博士論文），1998年
- 『メルロ＝ポンティ入門』ちくま新書，2000年
- 『〈見ること〉の哲学——鏡像と奥行』世界思想社，2001年
- 『デジタルメディア時代の《方法序説》——機械と人間のかかわりについて』ナカニシヤ出版，2005年
- 『進化論の5つの謎——いかにして人間になるか』ちくまプリマー新書，2008年
- 『現代哲学への挑戦』NHK出版（放送大学教育振興会），2011年
- 『差異とは何か——〈分かること〉の哲学』世界思想社，2014年
- 『現代思想史入門』ちくま新書，2016年

『いかにして思考するべきか？——言葉と確率の思想史』勁草書房，2017年
 『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書，2018年
 『死の病いと生の哲学』ちくま新書，2020年

《共著・編著・論文集・事典》

『近代変革期の倫理思想』（小倉志祥編）以文社，1986年
 『ヘーゲル——社会思想と現代』（城塚登・濱井修編）東京大学出版会，1989年
 『イギリス道徳哲学の諸問題と展開』（日本倫理学会論集）慶應通信，1991年
 『現代の地域と政策』（清正寛・丸山定巳・中村直美編）九州大学出版会，1997年
 『倫理思想事典』（星野勉・三島輝夫・関根清三編）山川出版社，1997年
 『言葉が開く哲学の扉』（哲学フォーラム編）青木書店，1998年
 『スタイルの詩学——倫理学と美学の交叉』（山田忠彰・小田部胤久編）ナカニシヤ出版，2000年
 『翼ある言葉——哲学の扉2』（哲学フォーラム編）青木書店，2002年
 『表現の〈リミット〉』（藤野寛・齋藤純一編）ナカニシヤ出版，2005年
 『生命・情報・機械』（高橋隆雄編）九州大学出版会，2005年
 『現代倫理学事典』（大庭健ほか編）弘文堂，2006年
 『カウンセリング心理学事典』（國分康孝編）誠信書房，2008年
 “Merleau-Ponty and Buddhism”, edited by Jin Y. Park and Gereon Kopf, Lexington Books, 2009年
 『医療の本質と変容——伝統医療と先端医療のはざままで』（高橋隆雄編）九州大学出版会，2011年
 『哲学中辞典』（尾関周二ほか編）知泉書院，2016年

[翻訳]

ナイジェル・ウォーバートン著『入門 哲学の名著』（監訳）ナカニシヤ出版，2004年
 P・L・M・ド・モーペルチュイ著「自然の体系」『生田哲学』第12号 専修大学哲学会編 平成23年8月10日 全120頁 pp. 39～67，2011年

P・L・M・ド・モーペルチュイ著「宇宙論」(上)『生田哲学』第19号 専修大学哲学会編 平成30年2月10日 全238頁 pp.66～91, 2018年

【論文】

「メルロ＝ポンティにおける歴史と自由について」『倫理学年報』第二十九集 日本倫理学会編 昭和55年3月 pp.127～140, 1980年

「ベトナムにおける道徳と教育」『道徳と教育』第231号 日本道徳教育学会編 昭和57年4月 pp.39～43, 1982年

「ベトナムと形而上学」『文部省科学研究費研究成果報告書』小倉志祥編 昭和58年6月 pp.46～52, 1983年

「メルロ＝ポンティにおける私の系譜学と顕在化の哲学」『実存主義』第八十九号 以文社 昭和60年7月 pp.48～64, 1985年

「メルロ＝ポンティと過程主義」『文部省科学研究費研究成果報告書』浜井修編 昭和61年3月 pp.50～67, 1986年

「メルロ＝ポンティにおける意味〔サンス〕」『熊本大学文学部論叢』第22号 熊本大学文学会編 昭和62年5月 pp.85～122, 1987年

「メルロ＝ポンティと意味の問題」『熊本大学文学部論叢』第22号 熊本大学文学会編 昭和62年5月 pp.51～84, 1987年

「ベトナムにおける「立法者問題」——言論の自由を巡って」『イギリス哲学研究』第11号 日本イギリス哲学会編 昭和63年4月 pp.17～28, 1988年

「ベトナムの人間像における知性的なもの」『熊本大学文学部論叢』第34号 熊本大学文学会編 平成2年12月 pp.57～92, 1990年

「鏡像と奥行（I）」『熊本大学文学部論叢』第42号 熊本大学文学会編 平成6年1月 pp.23～76, 1994年

「生命倫理と倫理学——「生命の倫理学」のはしがき」『熊本大学文学部論叢』第50号 熊本大学文学会編 平成8年3月 pp.55～70, 1996年

「社会的規制におけるコンセンサスの基盤（I）——社会制御基礎論序説」熊本大学共同研究報告書『国際統合の進展のなかの「地域」に関する学際的研究』熊本大学人文社会科学系大学院博士課程設置準備委員会編 平成8年3月 全

- 581頁 pp. 415～423, 1996年
- 「序文」科学研究費研究成果報告書『高度メディア社会における社会倫理の実証的研究（Ⅰ）』船木亨編 平成10年2月 全73頁 pp. i～ii, 1998年
- 「非組織型ネットワークにおける倫理的問題のありか——「情報権力論」のために」文部省科学研究費研究成果報告書『高度メディア社会における社会倫理の実証的研究（Ⅰ）』船木亨編 平成10年2月 全73頁 pp. 1～19, 1998年
- 「序文」科学研究費研究成果報告書『高度メディア社会における社会倫理の実証的研究（Ⅱ）』船木亨編 平成11年2月 全85頁 pp. 1～4, 1999年
- 「高度メディア社会を定義するもの——ネットワークにおける「素晴らしい新世界」」文部省科学研究費研究成果報告書『高度メディア社会における社会倫理の実証的研究（Ⅱ）』船木亨編 平成11年2月 全85頁 pp. 5～28, 1999年
- 「人間にとって機械とは何か——アニメに見るロボットのイメージ」文部省科学研究費研究成果報告書『高度メディア社会における社会倫理の実証的研究』大杉佳弘編 平成12年12月 全214頁 pp. 40～57, 2000年
- 「人間がある種の機械であることはひとつのニヒリズムか？——情報ネットワークと現代の機械観」『日本倫理学会第54回大会報告集』日本倫理学会編 平成15年9月 全114頁 pp. 22～28, 2003年
- 「例外と「冰山の一角」——第4回成年後見法世界会議をとおして」3月1日「実践 成年後見」No. 67 民事法研究会, 2017年
- 「メルロ＝ポンティと親鸞における「真理を語ることば」」『生田哲学』第18号 専修大学哲学会編 平成29年3月31日 全130頁 pp. 23～47, 2017年
- 「確率論的思考の歴史的社会的意義」『日本倫理学会第71回大会報告集』令和2年8月30日 全117頁 pp. 5～9, 2020年
- 「確率論的思考の歴史的社会的意義」『倫理学年報』第七十集 令和3年3月31日 全240頁 pp. 7～17, 2021年
- 「倫理とは何か」『月報司法書士』No. 590 令和3年4月号（特集：倫理を学ぶ） 全105頁 pp. 4～14, 2021年

[学会発表]

- 日本倫理学会第33回大会（玉川大学）「真の愛・偽の愛——メルロ＝ポンティの
実存主義」昭和57年10月23日，1982年
- 西日本哲学会第37回大会（西南学院大学）「ベンタムと言論の自由について」昭
和61年11月20日，1986年
- 日本イギリス哲学会第11回大会（福岡大学）「ベンタムにおける言語論と原理」昭
和62年3月28日，1987年
- 日本倫理学会第41回大会（法政大学）「権利と功利」（シンポジウム）平成2年10
月21日，1990年
- 日本イギリス哲学会第21回大会（熊本大学）「ベンタムの言語哲学」平成10年3
月30日，1998年
- 日本倫理学会第54回大会（静岡大学）「人間がある種の機械であることはひとつ
のニヒリズムか？——情報ネットワークと現代の機械観」（シンポジウム）平
成15年10月12日，2003年
- 専修大学哲学学会大会（専修大学）「メルロ＝ポンティと親鸞における「真理を語
ることば」」平成16年4月25日，2004年
- 日本倫理学会第71回大会（オンライン）「確率論的思考の歴史的社会的意義」（シ
ンポジウム）令和2年10月4日，2021年

[その他]

- インタビュー「プロフィール」『共立女子大学文藝学部報』第50号 7月5日，
1983年
- 書評「市倉宏祐・伊吹克己・菊地健三著『ジル・ドゥルーズの試み』北樹出版」
週間読書人7月8日号，1994年
- インタビュー「不確実性の時代を超えて」（alpha 1995.2-3 オブスキュア・イ
ンク社），1995年
- 講演「ひとはなぜ勉強しなければならないのか」6月11日 於・佐賀県立致遠館
高校，1995年
- 座談会「会員交遊録」若葉会会報38号 11月20日，1995年

- エッセイ「功利主義の倫理学」出版ニュース 1998年8月中旬号, 1998年
- インタビュー「ネット社会の落とし穴」佐賀新聞 11月5日(日)朝刊「読者と記者の交差点」欄, 2000年
- 講演「言語と思考」9月28日 於・専修大学(第37回文学部公開講座), 2003年
- 講演「哲学は人間をどのように捉えてきたか(1)」2月25日 於・成徳大学, 2004年
- 講演「哲学は人間をどのように捉えてきたか(2)」7月24日 於・成徳大学, 2004年
- 講演「哲学は人間をどのように捉えてきたか(3)」2月19日 於・成徳大学, 2005年
- 講演「哲学は人間をどのように捉えてきたか(4)」3月10日 於・成徳大学, 2006年
- エッセイ「相良先生の思い出」(相良久子編『相良先生の思い出』ぺりかん社), 2006年
- 講演「モバイル社会における技術と人間」(NTTモバイル研究所主催)10月17日 於・東京オペラシティタワー, 2006年
- 講演「感覚の空間性」12月2日 於・新潟大学サテライトキャンパス, 2006年
- 講演「哲学は人間をどのように捉えてきたか(5)」2月14日 於・成徳大学, 2007年
- 講演「哲学は人間をどのように捉えてきたか(6)」3月17日 於・成徳大学, 2007年
- 講演「哲学」7月6日 於・徳島城ノ内高校, 2007年
- 講演「人は学問をどのように考えてきたか」11月6日 於・川崎多摩高校, 2009年
- 講演「ドゥルーズについて」10月31日 於・放送大学茗荷谷校舎, 2009年
- 講演「フーコー《生のポリティクス》と健康」10月4日 於・熊本大学楠会館レセプションルーム, 2009年
- インタビュー「脱・人間中心思想の基盤」日本経済新聞 1月31日(日)朝刊「文化」欄, 2009年

インタビュー「映画「猿の惑星・創世記」とは？」10月6日 フジテレビ「めざましテレビ」, 2011年

特別寄稿「「人類の終焉」はいつでも起こりうる」10月11日「FLASH」10月25日号 光文社, 2011年

講演「自由の条件と限界」11月6日 於・川崎労働会館, 2014年

講演「生と老病死」11月17日 於・川崎市生涯学習プラザ, 2016年